

「次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会 制度検討作業部会  
第二十二次中間とりまとめ(案)」に対する意見

2025年7月24日  
一般社団法人 日本電機工業会

【意見 1】

・ 該当箇所

長期脱炭素電源オークションガイドライン

(2) 参加対象となる電源 P3～6

・ 意見内容

変動性再生可能エネルギーの大量導入における電力系統の安定化のためには慣性力の確保が必要であり、

慣性力を有する電源を区別して、慣性力の導入を促進するよう制度に反映いただきたい。

・ 理由

現状の市場設計において、電源の持つ慣性力の有無は区別ないため、慣性力の機能を持たない安価な電源が約定に優位な状況にある。慣性力を有する電源を区別して導入を促進することで、電力系統に必要な慣性力を確保し、電力系統安定に寄与できるものとするため。

【意見 2】

・ 該当箇所

長期脱炭素電源オークションガイドライン

(2) 参加対象となる電源 P5. d) 蓄電池

・ 意見内容

蓄電池（あるいは類似の蓄電設備）において、同期発電機等の手段を具備し同期化力・慣性力を有するものについて、何らかのインセンティブないし優遇を設けていただきたい。

・ 理由

蓄電池において、同期化力・慣性力の機能を有するものについては、既存同期発電機の代替として、変動再生可能エネルギー増加時の電力系統安定に寄与できるものとするため。

### 【意見 3】

#### ・ 該当箇所

次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会制度検討作業部会 第22次中間とりまとめ  
(案)

(参考図 5) 第 2 回入札における脱炭素電源の最低応札容量

P9. 3. 既設火力のアンモニア・水素混焼にするための改修案件 最低入札容量 5 万キロワット

P9. (a) CCS 付火力 (a-4) 最低応札容量

最低応札容量は、水素・アンモニアと同様に、既設火力の改修案件は 5 万 kW とした。

#### ・ 意見内容

既設火力 GX 改修案件の対象容量を送電端設備容量 5 万 kW から段階的に引き下げるべきである。

電源公平性の観点から、既設水力の大規模改修対象と同じ、3 万 kW 以上として、将来的には更なる引き下げを検討いただきたい。

また、既設火力の GX 改修案件について、早期実装促進されるよう、制度面で支援いただきたい。

#### ・ 理由

既設火力に対する GX 推進加速のため、また対象容量 5 万 kW 以上が障壁となり、対象外の既設火力の GX 改修が鈍化し、CO<sub>2</sub> 排出量の削減が進まないことを避けるため。

水素・アンモニア発電において、他国に対して「技術で勝ち」また「ビジネスでも勝つ」ため。

他国の実装に劣後しないよう早期に水素・アンモニア利用の拡大とコスト低減の両輪を進める制度支援が必要である。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】電力・エネルギー部